

神戸市感染症の話題

事務局 神戸市保健所保健課

〒650-8570 神戸市中央区加納町 6-5-1 Tel:078(322)6789 Fax:078(322)6763

結核

結核を含む感染症は感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)に基づき、医療機関からの発生届の情報が国のサーベイランスシステムに登録され、それにより、日本の感染症の発生動向調査が実施されている。令和6年8月、2023年の「結核登録者情報調査年報」が厚生労働省から発表され、全国の結核罹患率は8.1と低蔓延状態を維持しているがわずかな低下となった。

(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000175095_00011.html)

神戸市の2023年の結核登録者情報調査年報について、全国と比較して説明する。

1. 結核罹患率(人口10万人に対する新登録結核患者数)

2023年の結核罹患率は神戸市では11.3と2022年より増加し、再び低蔓延地域を逸脱した。市内で差はあり、最も罹患率が高いのは長田区の21.5で、次いで兵庫区19.1で、北区8.3、垂水区8.2、灘区5.9の3区は10未満であった。中央区は2022年には7.4と著明に低下したが、2023年は12.1と増加し、3区(中央・兵庫・長田)の罹患率が高い傾向は続いている。(表1、図1)2023年は発熱時の喀痰検査や胸部X線検査がコロナ禍の真最中よりは実施されるようになったと考えられる。今しばらくは一時的には患者数が増加しても、検査を勧めて患者の早期受診・早期発見に努め、感染の連鎖を断ち切りたい。

2. 新登録結核患者数(1年間に患者として届出られ登録された患者数、再治療を含む)

新登録結核患者数は全国では10,096人で前年より、139人(1.4%)減少している。神戸市では170人で、前年より、22人(約13%)増加した。予想通り、コロナ禍で減少していた外国生まれの人(特に日本語教育機関の留学生)が増加し、2021年2022年は各12人であった外国生まれの結核患者が2023年には25人に増加した。高齢者については胸部X線検査や喀痰検査の実施数が復活してきていると考えられる。外国生まれ結核患者数はすでに2022年の数を超えているため、同じレベルの減少率は望めず、再増加に注意が必要と考えられる。(表2、図1)

3. 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率(肺結核患者のうち、喀痰をガラス板に塗り顕微鏡でみて菌がみつかった患者(菌量が多い、他人への感染性が高い)数、及びその人口10万人に対する罹患率)

喀痰塗抹陽性肺結核患者数は全国で3,524人、罹患率2.8で、神戸市では75人、罹患率は5.0である。2022年に比し33人増加し、罹患率も2.3から5.0に増加、新登録患者に占める割合も44.1%と増加し2021年とはほぼ同等である。感染拡大防止のためには、喀痰塗抹陽性になる前に患者を発見し治療を開始することが重要である。(図2)

4. 結核菌の感受性検査結果

結核菌は、薬剤耐性が誘導されやすく、3~4剤の多剤併用療法が標準治療である。主要な薬剤のINH,RFPの2剤が耐性であれば多剤耐性結核(MDR)である。新登録肺結核培養陽性患者は全国で5,515人、うち、

薬剤感受性結果が判明しているのは 4,526 人、MDR は 35 人(0.6%)であった。神戸市では培養陽性患者 81 人、1 人のみ MDR と判明した。過去の治療歴は明らかでなく、高齢者で診断後 1 か月以内に他界されたが、家族等周囲への感染拡大は否定的であった。

5. 年齢階級別新登録結核患者数(図3)

新登録結核患者を年齢階級別にみると、70 歳以上は全国では 6,272 人で 62.1%、神戸市では 114 人で 77%をしめる。80 歳以上は全国では前年より 490 人減少して 4,583 人(44.8%)、神戸市では 28 人減少して 79 人(53.4%)であった。70 歳以上の結核患者は合併症や年齢による免疫力の低下により発病していると考えられるが、何となく元気がない、食欲が低下してきたなどの症状が結核のはじまりのことがある。

6. 小児結核(0~14 歳の新登録結核患者)

小児結核患者数は全国 37 人、前年から 2 人の増加となったが、粟粒結核 2 人、結核性髄膜炎 3 人、兵庫県内でも 1 人あった。神戸市の小児結核は 2017 年に 3 人、2018 年・2019 年には 0 人、2020 年に 2 人、2021 年に 1 人で 2022 年・2023 年は 0 人であった。小児の結核を減らすためには大人の結核を早期発見することが重要である。

7. 外国生まれ新登録結核患者数

全国では前年から 405 人増加し、1,619 人となった。神戸市でも 25 人増加し、全新登録結核患者の 14.7%に上昇した。20 代の新登録結核患者 17 人中 16 人(94.1%)が外国生まれであった。近年神戸市内での住民登録が急増しているネパール・ミャンマーは結核の罹患率が高い国で、語学学校などの留学生の中から、2023 年 12 人発病した。入国 2 か月以内の健診で患者が発見されている。健診を受ける習慣がないため、継続した健診の受診勧奨が必要で、有症状時にもなかなか受診につながらないため、言語の壁を越えた知識の普及が必要である。

8. 潜在性結核感染症(結核菌に感染しているが、症状・所見はなく発病していない状態 : Latent Tuberculosis Infection

LTBI) 治療が必要な例のみ届出る。全国で 5,033 人、前年より 8 人増加、神戸市では 48 人で、前年より 12 人減少した。生物学的製剤などを使うため治療が必要となる人が多数で、年齢も合併症の多い 60 歳以上が 33 人で 68.8%を占めている。(図 4)2021 年 10 月 18 日の医療基準の改定により、INH、RFP2 剤で 3~4 か月というレジメが追加承認された。RFP は薬剤の相互作用が多いため、他の薬剤を服用していない、若年者の LTBI 治療に使用され、治療完了に導いている。

表1 罹患率(人口 10 万人あたり)

年	2021	2022	2023
神戸市	13.2	9.8	11.3
東灘	10.8	12.7	10.0
灘	8.8	11.7	5.9
中央	14.2	7.4	12.1
兵庫	17.5	12.7	19.1
北	14.8	8.2	8.3
長田	22.3	17.0	21.5
須磨	13.3	9.6	14.8
垂水	9.9	9.0	8.2
西	13.5	5.5	10.8

2020年は国勢調査の人口集計値で計算

2021・2022 年は統計こうべの 10 月推定人口で計算

表 2 新登録患者数(人)

年	2021	2022	2023
神戸市	208	148	170
東灘	23	27	21
灘	12	16	8
中央	21	11	18
兵庫	19	14	21
北	31	17	17
長田	21	16	20
須磨	21	15	23
垂水	21	19	17
西	32	13	25

図1 各区罹患率 人口10万人に対する患者数 (2020年～2023年 新規患者)

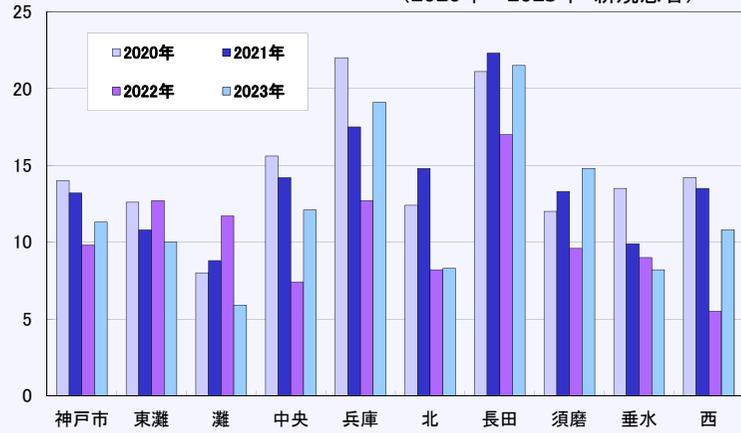


図2 新登録結核患者数(年次推移) 神戸市

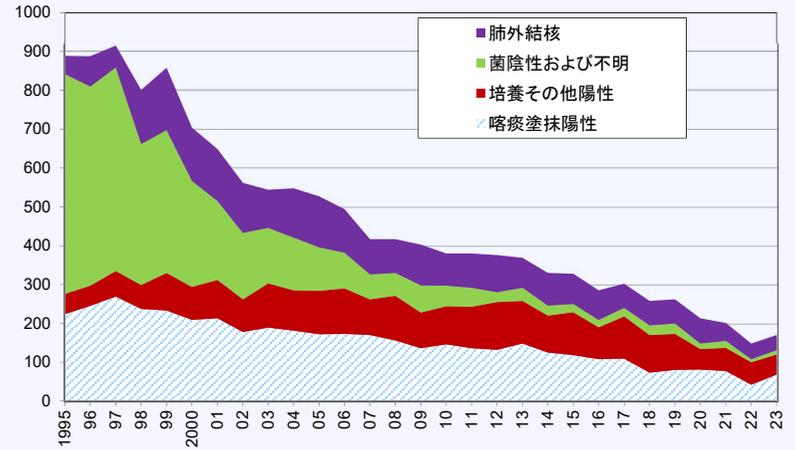


図3 新登録患者年齢分布 神戸市

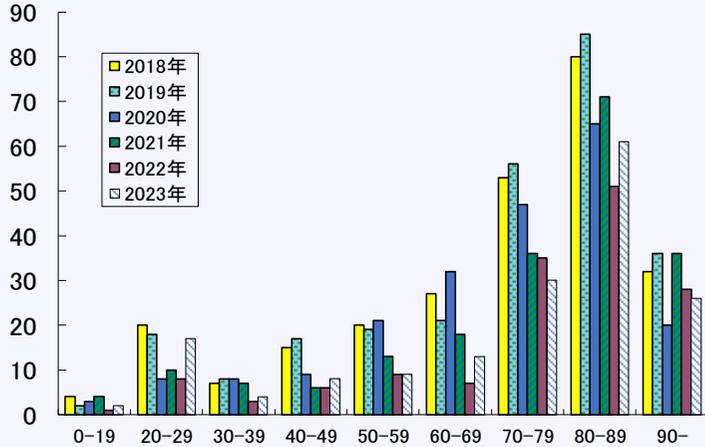


図4 潜在性結核感染症登録者数の推移 (神戸市)

